

ゆうかり放送委員会提供

# ゆうかりに乾杯

第94回放送の概要 (2015年3月28日放送)

**パーソナリティ**

さくら (安本久美子)  
 たろう (佃 由晃)  
 なか (中嶋邦弘)  
 かりん (妹尾優香)  
 あな (岸本幸恵)



**ミキサー**

門ちゃん (門田成延)

**相談役**

わだかん (和田幹司)

**会計**

小山俊則

(CM) JR兵庫駅前の「神戸ルミナスホテル」, 抜群のロケーション、最新の設備と最高のおもてなし、ビジネス、観光の快適な拠点として皆様のお越しをお待ちしております。1階コローレではおいしいコーヒや紅茶、おいしいランチやお食事なども楽しめます。本日は「神戸ルミナスホテル」様 (TEL:078-511-7700) のご協力を頂きました。

(CM) 神戸を代表する本格中華料理の名店、神仙閣神戸店は、昭和9年の創業から今もなお、神戸の地で愛され続けており、繊細な味わいと中華の伝統スタイルを継承しながら、華やかな北京料理を提供させていただいています。兵庫高校OBの武陽会及び49陽会の皆さんも、神仙閣神戸店で、同窓会、披露宴は勿論、クラス会、祝勝会などの会合に是非ご利用ください。ご予約は神仙閣 神戸店 電話050-5789-6080までお願い致します。本日は神仙閣 神戸店様のご協力を頂きました。

1. ゲストコーナー(1): ガールスカウト兵庫県第11団河野真紀さん、さかがみあかりさん、えさしはるなさん、せきがわまいかさん、すみともりんさん、もろおかりいのさん(以上小4年)、こうのかやさん(小3年)

子供達がガールスカウトに入団したいと思った理由は、友達から体験会に誘われとても楽しかったから、入団すると友達が沢山出来ると思ったから、お母さんとお婆ちゃんが入団していたから、友達から習おうと言われたなどです。リーダーの河野さんの場合は、小1から始めたが、お婆ちゃんがマルシン市場で商売をしており、母親のママ友の子供が入団していたので入団を勧められた。当時は小1からの入団であるが、今は幼稚園の年長(テングーフット)からになっている。



首に巻いているチーフの色は、リーダーはブルー、ジュニアは茶色、ブラウニーは赤色になっている。11団のブラウニーの制服の色はブルーであるが、これは制服の在庫が残っていたので着用している。ジュニアは紺のショートパンツにカーボーイのような帽子を着用している。

活動内容としては、さまざまな自然体験活動をおこなっており、夏のキャンプで飯盒炊さん、テントの設営、竹とノコを使ったテーブル作りなどを、ジュニアの段階で習得するようにしている。子供達の活動の感想は、とちのき村（尼崎市立美方高原自然の家）では朝の集い、林業体験として丸太切りなどが楽しかったこと、21 団と 11 団の合同キャンプで、新しい友達と飯盒でご飯を作り、小屋に泊まり、木製のブランコが楽しかったそうです。またブラウニーの子供は野外活動が少なく、室内でご飯を食べたりすることが多く、県のキャンプの時は他の団と遊べるので楽しかったそうです。

**●少女会員の育成目標**

- テンダーフット（就学前 1 年）  
豊かな感性を持つ
- ブラウニー（小学 1～3 年生）  
自分を表現する
- ジュニア（小学 4～6 年生）  
仲間と協力する
- シニア（中学生）  
体験を通して自分を見出す
- レンジャー（高校生相当年齢）  
責任ある立場で自分を生か



これらの活動を通じて、自ら考え行動出来る女性になることを目指している。小学校低学年では難しいところがあるので実際には中学生のシニアの部門になる。

ガールスカウトには「やくそくとおきて」のもと、「活動の3つのポイント（自己啓発、人とのまじわり、自然とともに）」を大切にしながら、自分たちでやりたいことを見つけ、計画をたてて実行することで「いろいろな事ができる自分」の可能性を広げていきます。

子供達に「やくそくとおきて」を唱和してもらいました。唱和する時に3本の指を立てているが、これは会員同士のあいさつの時、旗に対する礼などの時に行うもので、やくそくとおきてを大事にする気持ち、相手を大事にする気持ちをこめている。以前ブラウニーは2本指であった。

### やくそく

私は  
神（仏）に対するつとめを行い  
地域と国と世界への責任を果たし  
人に役立つことを心がけ  
ガールスカウトのおきてを守ります。

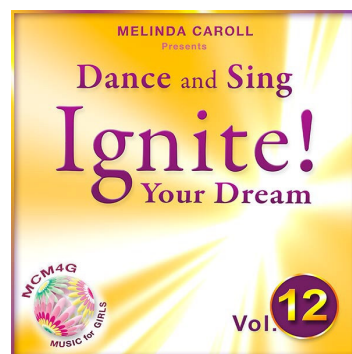
### おきて

1. 私はいつも明るく、勇気もちます。
2. 私はいのちあるものを大切にします。
3. 私はすべての人の友達となり、他のガールスカウトとは姉妹です。
4. 私は礼儀を正しくします。
5. 私は時間と資源を大切に使います。
6. 私は自分で考え行動します。
7. 私は言葉と行いに責任もちます。
8. 私は誠実であるように努めます。

## 2. ミュージック：We Change the World (Dance Ver.)

歌手：Melinda Caroll

ガールスカウトで、世界中の仲間と一緒に世界を変えていこうよという内容の歌詞で、思わずダンスをしたくなるリズムです。



## 3. ゲストコーナ（2）

阪神淡路大震災発生時は、河野さんは兵庫高校3年生で、前日センター試験があり失敗し、受験をどうしようか考え悩みながら寝ていた。当時住んでいたのは東山町マルシン市場の南側の東山ビル7階で、1階が店舗2、3階が倉庫で柱が少なかったのか2、3階部分が潰れてしまい、道路側に傾いた。廊下は傾き2階からは階段が使えず。隣のマンションから地上に出る事が出来た。



河野さんの居住ビル（左の薄い緑色）  
1995年1月18日



2枚の写真は河野さん居住ビルのすぐ傍  
（写真3枚は和田幹司さん撮影）

すぐに東山小学校に避難した。河野さんと中3の弟も受験で、父親の仕事が大阪のため、会社が寝屋川の家を社宅として提供してくれたので、2月には大阪に引っ越していた。大阪では震災があったこともわからないくらい何不自由ない日常生活を送った。結婚後しばらく大阪に住んでいたが、長女が1歳になる前に、ご主人の勤務先が中央市場に変わっていたので市営住宅に応募し当選し、今の神戸の住所に戻ってきた。震災時は娘時代のため罹災証明がなく、神戸に帰りたい思いがあり、申込人の御主人は加古川のため震災に関係ないので、申込書に「妻が県外被災者です」と書いたことがよかったのかもしれない。

神戸に帰ってきて地震のことについては、子供が生まれるまでは震災発生時の音、風景、友達が亡くなっていることなどから思い出したくないことであった。河野さんよりひどい状況の人がいたので、話をする機会もなかった。子供が生まれると守ってあげなければいけない気持ちになり、怖がってはいけないので、そこでふっ切れた部分もあった。しかしそれでも触れなくなかった。子供が通っていた明親小学校には、子供が入学の少し前に臼井真先生がおられたので、子供達にしあわせ運べるようにをきちんと教えていた。毎年1月17日近くに追悼集会を行っていた。子供が1年生の時に参観日で初めてしあわせ運べるようにを聞いたが、それまでは毎年TVの追悼番組を見ることが出来ず、大阪に住んでいたこの曲を聞く機会が全くなかった。「地震にも負けない強い心を持って」という歌詞を聞いて、地震を知らない人が書いたと思い、思い出すのが嫌だから歌わないでと言ってしまった。

2年生の追悼集会の時に、新任で担任の長谷川元気先生が、震災時は2年生で東灘で被災し、お母さんと生まれたばかりの弟さんを亡くしたという体験話をされた。河野さんより辛い体験をした人が子供達に向かって話をしてくださることから、自分も前を向いていかないといけないと思うようになった。

今年は3年生の参観日で平和と震災を考えるクラスでの平和集会有り、グループに分かれ平和について考えた事を発表してくれた。最後にしあわせ運べるようにを保護者に向かって歌ってくれた。普段から、震災や平和の事を学んでその気持ちを込めて歌ってくれたので、未来の光を浴びるような気持ちになりながら、曲を聞かせてもらった。その瞬間子供達に未来を任せられる、自分が頑張らなくても一緒に頑張ってくれることを凄く感じ、この歌がやっと好きになった。

河野真紀さんの facebook に 2015 年 1 月 18 日 投稿した文章

20年 歌い継がれてきた「しあわせ運べるように」、神戸の子供達に、この歌と教訓を語り継ぎ、伝え続けてきて下さっているみなさまが、本当にありがとうございます。

私なりの20年の answer が出ました。

寄り添い、元気付けてくれる子供達がすべての希望です。

1、亡くなった方々の分も毎日を大切に生きてきた。

傷ついた神戸も私も元の姿には戻っていないけれど、支え合う心と 明日への希望が見えた  
20年目の今日がある。

響き渡った子供達の歌 生まれ変わった神戸のまちと私に子供達の歌から確かに届いた。

しあわせが運ばれてきた。

地震に負けない 強い心をこれからは 持てるかもしれない。

2、神戸も私も 傷ついていたんだ。

元の姿には もう戻せないけれど。

子供達の歌が響き渡った。

優しい春の光のような未来を夢見ることができる。

生まれ変わった神戸と私に子供達の歌声がしあわせを運んできた。

地震に勝てるような 強い心はこれからも持てそうにないけれど強い絆を作れたならどんなことにもきっと負けなくなるんだらうな。

河野さんは元々は保健室の先生になりたいと思っていた。小学校高学年の時に、6年生が意地悪を言ってきたなどを相談していたのが保健の先生で、そういう存在になりたいと思っていたが、数学が出来ず断念した。意地悪をする人、気の合う人など色々な考え方の色々な人がいるのはどうしてかを考え、進路相談で、何で自分が生きていくのが気になると言ったところ、龍谷大学哲学科を勧められた。

龍谷大学ではデカルト、カントなど「われ思う故に我あり」などを学んだが、答えの出ない事をくよくよ悩むことはどうかと思いつくことがなかった。龍谷大学は浄土真宗で、仏教学や真宗学の授業があり、仏陀の教え、仏陀の生涯、親鸞聖人の教え、生涯を学び、自分の求めていたのはこれだと気付いた。人にはいろいろな考え方、心の動きがあるのが当たり前で、その中で皆が協力し、思い合いながら生きていこうということに気付いた。

河野さんの家は真言宗で、おじいちゃん、お婆ちゃんが何を言っているのかわからないお経を読んでいたが、お経の本当の意味は何か考えてきた。入学の時に大学から仏教聖典をもらい、本の下段にお経の意味が書かれていたのを読んで、これならわかると思った。浄土真宗、真言宗のお経の意味を勉強するようになり、理解していくと、決して亡くなった人、先祖に対して詠んでいるのではなく、今生きている我々が大事にしなければならないことが書かれている。

仏教聖典は、仏教伝道協会からオレンジ色のカバーで出版されており、ホテルなどにも置かれている。例えば「心のくいちがい」では、「心と心のくいちがいはまことに恐ろしい不幸をもたらすのである。わずかの誤解も遂には大きな災いとなる。家庭の生活においてこの事は特に注意をしなければならない」。お経の中にこのような事が書かれているとは思わない内容で、家庭では夫婦はこのように事に気をつけましょう、子供はこういうものです、女性にはこのようなタイプがありますなどが書かれています。河野さんは仏教聖典のことを多くの人に知ってもらうために伝道協会の許可を得てHPを作っています。  
<http://www.geocities.jp/makibow0306/index/index-seiten.htm>

#### 4. 地域瓦版

(1) 3月16日に沖縄糸満高校と兵庫高校の練習試合が行われた。経緯は兵庫高校の前身の兵庫県立第二神戸中学校出身の島田叡さんは、戦時中の最後の沖縄県知事を務め、昭和20年6月26日に糸満市の摩文仁の丘で亡くなられた。糸満高校とは島田叡さんとの縁で、今年初めて選抜に出場することになり、島田叡さんは高校、大学共に野球では走攻守で活躍されており、野球の関係もあり、糸満高校の上原監督は親族が沖縄戦で亡くなられており、上原監督から石井校長に島田さんの僕である兵庫高校野球部と練習試合をしたいとお話があり実現したものである。

糸満高校の生徒さんは来神前に、一昨年放送されたTVドラマ「生きる」及び、ドラマに沿った内容の本を勉強してきた。練習試合はあじさいスタジアム北神戸で行なわれ、兵庫はダブルスコア以上の点差で敗れた。試合終了後、両校はグラウンドで交流を行った。



糸満高校-兵庫高校 練習試合(あじさいスタジアム北神戸 2015年3月16日)



- (2) 4月2日はライトイットアップブルー（世界自閉症啓発）の日です。能福寺の大仏、姫路城、他多くの場所がブルーにライトアップされます。
- (3) KOBE JAZZ DAY 2015が4月4・5日に開催されます。



ガールスカウトの子供達に番組最後に歌を歌って頂きました。

今日はひとまず別れよう  
でもずっと別れるわけじゃない  
ここで会おうねまた今度  
また一緒に歌おうね

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>